

# 駒ヶ根民報

No.1362

2016,6.26

日本共産党

駒ヶ根市委員会

TEL 83-2969

## ○熊本地震から教訓を生かす防災対応は

## ○3セク債の活用と市財政今後の見通し

## ○ジオパークの活用、教育と地域再発見を

坂本やすひこ議員の一般質問

### 耐震基準の見直しを

問 熊本市を中心とする地震災害では、最大震度7が2度発生し、さらに連続的地震という今まで経験したことがない地震による甚大な被害になった。耐震化になっていて大丈夫と思われていた建物が崩れたところがある。

耐震に対する見直しはしなくても大丈夫かどうか。

耐震補強してあるところも、今一度点検しなおすことも必要になるところがあるのではないか。

### 車で避難する駐車場の

### 緊急確保の準備を

多くの被災者が車での避難生活をせざるをえない状況がありました。

れているかどうか。

### 今回の震災を契機に

### 対応を検討

市長 想定外の被害で今までの耐震基準には一石を投じた。国の基準どおりにしてきたが今回を契機に国とあわせ対応する。

避難生活には広い土地確保の必要性がある。

地域防災計画では、市内十ヶ所の公園などに、応急仮設住宅の土地を確保している。

熊本地震では駐車場が応急避難場所として機能した。

公共施設の駐車場についても災害時の避難箇所として利用可能か早急に検討する。

### 震災時に上水道の

### 受水対応は

問 震災時に駒ヶ根市の水源として上伊那広域用水から受水をしているが駒ヶ根まで来る途中に、あるいは市内の配水設備の過程で被災し破損したとすれば大きな影響を受けるが備えはどうか。

切石浄水場と関連しての対応はどうか

### 給水範囲拡大は可能

上伊那広域用水からの受水は四割で、断水しても切石と休止施設の最大の活用で給水範

囲拡大は可能。

上伊那広域用水の耐震化は90.7%となっている。

### 3セク債の活用と

### 市財政の今後の見通し

問 駒ヶ根観光開発、土地開発公社の清算と見直しは、3セク債を活用していくことになっているが、損失補償、債務保証はどこまでか。

財政への影響は、将来負担比率も上昇していくが財政見通しはどうか。

### 長期的には

### 財政健全化に

市長 2法人の整理による債務返済に向けた3セク債の起債額は約22億7千万円程度。3セク債にかかる元利償還金は返済期間を30年とした場合、毎年度約9000万円増加する見込み。

起債により市の将来負担比率は今年度決算で約30%上昇する見込み。財政指標の数値悪化は避けられないが、2法人の債務整理により長期的視野では大きな財政健全化が図れる

その他の元利償還金は今後減少傾向が見込まれる。

3セク債の償還が始まった後も総額が大きく増えることはない。

### 中央アルプス

### ジオパークの構想は

問 中央アルプスジオパークのねらいと構想について聞きます。

構想のなかに、教育活動の充実がある。学校の西駒登山は上伊那の多くの中学校で実施し、長年機能し一定の実績があり教育活動を充実させ地域住民の地域再発見を促している。

ジオパーク活用は位置付けて、日本全体に発信していく、さらに貢献度を再評価していくべきでは。



### 教育に生かし、見つめ直し、活用し、地域活性化

市長 ねらいは、教育に生かし見つめ直し、活用し地域活性化。8市町村で歴史、文化一体的な地域であり貴重な地形。

中学生の西駒登山は、ほとんどすべての上伊那の中学校と下伊那からも実施している。

子どもの頃からジオパークと相乗効果上げるように、郷土愛育む地域づくりになるようにする。